

回心が希望を生む(1)

信仰は「進歩」や「上達」ではなく「成長」するものです。科学技術は進歩し、スポーツは上達します。それらは努力の結果を表わす言葉ですが、神に向かう「信仰、希望、愛」という対神徳は、人間の努力の結果ではありません。神の慈しみによって与えられる賜物です。草花と同じように「成長する」のです。だからイエスも信仰を種に例えています。最初は「みことば」という種が心に落ちます。ある種は道端に落ちて踏まれ、石地に落ちた種はすぐに枯れ、茨に落ちた種は茨に邪魔されて成長しません。いずれも実を結ぶことができません。実を付けない種は全部失敗です。つまり、成長しない信仰は救いに至らず、失敗するのです。実を付ける種だけが救われます。信仰は絶えざる成長が必要です。実をつけるまで「桃栗三年、柿八年、信仰は一生」です。

信仰の成長をペトロの回心を辿りながら見ていきましょう。回心の前は、お金と楽しみのために生きて、掟を守るだけの「形式的な信仰」でした。ある日イエスと出会い、招かれ「はい」と応えました。網を置いて、舟を捨て、すべてを捨てて「イエスに従い」ました。これが最初の回心です。その結果、イエスの求めに応じて活動して、欠点を改める戦いが始まりました。「行動と戦う信仰」です。ペトロの二回目の回心は、大漁の奇跡です。「お言葉ですから、やってみましょう」と言って網を降ろしました。その結果、奇跡の大漁になり、イエスが神であることに気付きました。そして「私は罪深い者です」と信仰告白します。自分は神に目をかけられる値打ちが無いと気付いたのです。「神の御前で自分は何者であるか」に気付くことが第二の回心です。

ペトロの信仰宣言の直後、イエスは受難と救いについて語りました。ペトロはイエスを救い主と信じていましたが、受難を否定しました。イエスは「あなたは神のことではなく、人間のことを考えている」と叱りました。ペトロはイエスの身の安全を考えて言ったつもりでしたが、自分の安全を考えていたのです。その証拠に、イエスが捕まると「知らない」と言って主を裏切りました。命懸けで従う覚悟がなかったのです。イエスに従いながら、実は自分の願いを叶えていただけでした。「あなたは神ではなく、自分のことを考えている」というイエスの叱責のことばが、あなたに聞こえていますか？第二の回心の結果、何事も「神に委ねる」という信仰が生まれます。自分が望まないことも神の計画として受け入れます。洗礼で頂いた信仰の種を後生大事に土に埋めて保管するだけなら「不忠実で悪い下僕」です。善い信仰は絶えざる回心で「みことば」イエス・キリストとの関係を育てることです。■（文責：小寺神父）

回心が希望を生む(2)

希望は、その人にとって人生の目的と切り離せません。「誰のために」「何のために」生きるのかを自覚した時、その人の心に希望が生まれます。目的は行動の前にあり、行動の最後に完成するのが目的です。目的が無ければ希望もありません。希望は妄想や思い込みではありません。希望は種のようなものです。種は今、ここに 있습니다。種を播くから収穫の希望が生まれます。種を播かなければ希望はありません。

すべての人が幸福を求めています。これが共通の人生目的です。ところが同じように幸せを目指しても、その中身が人によって違います。人によって違う種を播いているようです。この世の富や力を求めるなら、それを手に入れても心は満たされません。欲望を満たして今さえ楽しく笑って暮らせたならそれで良いという人もいますが、それらはすぐに終わって後には虚しさしか残りません。人間は所有するだけでは幸せになれません。自分自身が成長しなければ幸せを味わうことが出来ないのです。見えない霊において成長することです。

「信仰、希望、愛」三つの対神徳はつながっています。信仰がなければ、この世的な価値しか見えませんから、富や力、欲望実現という見えるものを目指すことになります。この世しか信じないなら、そこから生まれる希望は必然的に儚いものになります。それは希望と言えません。目的自体が刹那的で儚いからです。人間を満たすことが出来るのは神の他にありません。だから神に従うことが幸福の道です。ただし、これには信仰が必要です。神に愛され神を愛する時、人は満たされます。その結果、人から愛され人を愛することがやさくなり、幸せになります。人間は「愛において成長し、愛において決定的に実現する幸福を必要としています」(『希望が欺かない』21 番参照)。

真の希望は「永遠の命です。そこでは神と完全な交わりが実現します。神を観想して神の愛に参与するのです」(『希望が欺かない』21 番参照)。信仰から生まれる希望が、私たちが神への愛へと導いてくれます。信仰が止まると、希望が弱くなります。すると世間的な誘惑が大きくなり、神の愛が分からなくなり、信仰が弱ります。この悪循環に陥ります。逆に信仰を育てる意識を持ち、絶えざる回心を心がけるなら、希望は明るく輝き、神の愛を心で味わえます。これが更に信仰を強め、生き生きとさせます。信仰の好循環が始まります。この聖年を活用して、信仰を増してもらいましょう。「信仰、希望、愛を増して下さい」アーメン。■2025/02/23 長与教会講座(文責:小寺神父)